

第139回

東南アジアの自然と農業研究会



『アーボリカルチュア(arboriculture)が 結ぶ野生動物と人 インドネシア東部島嶼部住民による「半自然」的な森の創出』

話題提供者：笹岡 正俊 氏

(財団法人自然環境研究センター研究員)

日時： 2009年4月17日（金）16時より

場所： 京都大学東南アジア研究所
稲盛財団記念館3階 中会議室

発表では多様なアーボリカルチュア(arboriculture)ー有用木本性植物の植栽・保育・利用ーを通じて集落を取り囲む熱帯林のなかに、いかに多様な「森」が創出・維持されているか、そして、そうした「森」を、野生動物がどのように利用し、また、そこに飛び込んでくる野生動物を人がどのように利用しているかを明らかにすることを通じて、アーボリカルチュアを媒介に、人と野生動物のあいだに「緩やかな共生関係」とでも呼ぶべき相互関係が生み出されている可能性について論じたいと思います。（発表要旨より）



研究会ホームページ： <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/seana/>

お問い合わせ先：

佐々木綾子 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

Tel. 075-753-7163 sasaki22@asafas.kyoto-u.ac.jp

田中耕司 京都大学地域研究統合情報センター

Tel. 075-753-9600（センター長室）,9603（代表）

kjtanaka@cias.kyoto-u.ac.jp

*事前登録不要

*皆様のご来聴をお待ちしております